

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです

太宰府の文化財

⑪

木造仏像(伝薬師如来坐像)へ重要文化財

寄木造り

(像高二百二十二センチ)

平安時代中期 国分寺蔵

薬師とも胎蔵界大日如来ともいわれるこの仏様は、訪れる者をい

つもやさしく迎えてくれます。聖武天皇の天平十三年の詔により、この地にも国分寺・国分尼寺が建立されましたが、今はわずかに残る礎石に昔を偲ぶばかりです。金堂跡に建つ現本堂の奥に、宝冠をかむる柔らかなお姿が拝せられます。



題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです

太宰府の文化財

⑫

天神の森(くす) へ県指定天然記念物

太宰府 天満宮境内

初夏の光を浴びて、天神の森は
一斉に衣替え。萌え出る若葉は大
地の息吹。

樹齢千年をこえる国指定の二本
をはじめ、五十一本の巨くすが

天神の森を形作っています。天に
向って枝をいっぱいに広げたもの、
池の水面を這うように伸びるもの
様々な樹形はくすの博物館です。

くすは太宰府市の木。湧きあが
る新緑は千古の昔から変らぬ命の
証しです。



市政だより

太宰府

NO. 357

S61

5.15

題字「太宰府」は国宝輪苑よりその字体を集録したものです



太宰府の

文化財

13

せいじさんぞくこ
青磁三足壺

(重要文化財)

総高二十二・二センチ 胴部最大径二十
二・六センチ 観世音寺蔵

この三足壺は、通古賀字立明寺の桑畑で発見されたものです。青銅器の鏡とよばれる釜形の器をまねて作られたもので、盛唐のころ中国浙江省越州窯で焼かれ、平安時代初めに日本に輸入されたと思われる。

出土地の近くで、最近話題になったイスラム陶器を出土した遺跡や、唐代の陶枕が出た市の上遺跡、また四月にも建物跡が発掘されるなど、この辺りは太宰府の役人たちが住んでいたのかもしれませんが、こんな立派な青磁を持っていたのはどんな人だったのでしょうか。



市政だより

太宰府

NO. 359

S61

6.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです



太宰府の 文化財

⑭

銅製花瓶・一対

(県指定有形文化財)

高さ五十三・三センチ 胴
径二十八・五センチ 桃山
時代 太宰府天満宮蔵

花瓶は密教の法具の一つで、花をさすためのものです。胴が張り、首と腰が細まり、口と脚とが開いたいわゆる垂字形あしけいという形です。この花瓶は、大きさや造り方からみて、最初から一対のものとして造られたようですが、胴部に彫られた銘文から、それぞれ別の人が寄進したことがわかります。一つは慶長三年（一五九八）に肥前国籠造寺かごぞう家久の母が、他は筑前国志摩郡の朱雀氏すざくが寄進しています。太宰府天満宮が、安楽寺天満宮と呼ばれていた神仏混同の時代の遺品です。



市政だより

太宰府

NO. 361

S61

7.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです

太宰府の文化財

木造馬頭観音立像 〈重要文化財〉

⑮

ヒノキの寄木造 像高五百センチ
平安時代後期 観世音寺蔵

観音は救済すべき相手によって様々な姿に身を変えて現われると
います。頭上に馬頭をいただき

忿怒ぶんにの形相をした四つの顔と八本の手を持つこの観音様は、馬が牧草を食むごとく悪根をくいつくし、人々を苦しみから救うといわれます。我国の馬頭観音像の代表的な作品としてよく知られたものです。





市政だより

太宰府

NO. 363

S 61

8.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです



上空から見た大宰府政庁跡

太宰府の文化財

⑬

大宰府跡

(国指定特別史跡)

指定総面積 一二十五ハシ

政庁跡 南北二百一十一ハシ

東西百十七ハシ

面積二・三ハシ

「都府楼跡」の名で親しまれている場所は「大宰府」という大きな役所があった所です。大宰府は奈良・平安時代、九州全体を治め、外国との交渉の窓口として重要な役割を担っていました。その中心が現在の政庁跡（都府楼）で、立派な建物が建ち、儀式などが行われていました。また、その周辺には実務を担当する役所が建ち並び、千人以上の役人たちが仕事をしていました。

大宰府跡とは、この政庁跡を中心に周辺地域を含む二十五ヘクタールを指します。

千三百年の歴史をもつ大宰府跡として今に遺る大きな礎石を私たちは大切に守り伝えていきたいものです。



市政だより

太宰府

NO. 365

S61

9.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです



太宰府の 文化財

⑰

太宰府天満宮神幸行事

(県指定無形民俗文化財)

九月二十二日・二十三日

ドーン、カーン、ドーン、カーン秋の筑紫路に太鼓と鐘の音が響きます。

注連立て、御道具出し、潔斎、お汐取りなど、九月に入ると祭のための一連の行事が続きます。そして二十二日夜、高張提灯を先頭に鉦や太刀、旗、御所車などが続き、金さしはや傘がさしかけられた神輿は、馬に乗った神官や氏子の人々に守られて榎社まで下ります。

道真公の配所の生活を慰めた淨妙尼の祠に参り、一泊した後、翌日午後再び天満宮まで帰るこの王朝絵巻は、康和三年(一一〇二)大江匡房が夢のお告げによって始めたと伝えられています。



市政だより

太宰府

NO. 367

S61

10.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです

太宰府の文化財

⑱

木造不空絹索観音立像
《重要文化財》

クスの寄木造 像高五一七センチ
鎌倉時代初期 観世音寺蔵

苦海を漂う人々を、手にした繩で救い上げるこの観音様は、寺の巨像群の中でも最大のもです。

胎内の銘文から、もとは粘土でできた塑像（そとぎょう）でしたが、鎌倉時代初期壊れたため、現在ある木造の像を造ったことがわかりました。胎内には塑像の心木と頭部の残片お経が納められていました。





市政だより

太宰府

NO. 369

S 61

11.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです



太宰府の

文化財

⑱

陣ノ尾じんのお一号墳

(市指定史跡)

国分小学校が建つ丘の麓に、ぽつかりと口が開いています。市指定文化財の第一号となった陣ノ尾一号墳です。古墳といえは天皇陵のような大古墳を想像する人が多いかもしれませんが、古墳時代後期になると、各集落の有力者たちも古墳をつくるようになります。

この古墳もそうしたもので、主人以外に家族なども追葬できるように横穴式石室という構造を持った円墳でした。外から出入りできるように通路(羨道)をつけ、遺体を葬る部屋(前室・奥室)の入口は石などでふたをして、必要な時はそれを開けることができました。中からイヤリングや鉄製の矢じり、土器などが見つかっています。

危険防止のために扉が閉じられています。格子の間から石室の様子はよく見えるので、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。



市政だより

太宰府

NO. 371

S61

12.15

題字「太宰府」は国宝翰苑よりその字体を集録したものです



太宰府の 文化財の 梵鐘 (国宝)

⑳

総高一六〇・五センチ、口径八六・三センチ
七世紀末 観世音寺蔵
「都府楼はわずかに瓦の色をみ、
観音寺はただ鐘の声をきく」と菅
原道真の詩にうたわれたこの鐘は
日本で最も古い梵鐘の一つです。
力強い竜頭を持ち、全体にすっ
きりと引き締った形をしています。

そして上下帯の唐草文や撞座の蓮
華文は、朝鮮半島の新羅の影響を
受けているといわれています。
この鐘とほとんど同じ形なので
同一工房で鑄造されたと推定され
る梵鐘が、京都の妙心寺にありま
す。妙心寺の鐘には、文武天皇二
年（六九八）に柏屋郡の長官春米

連廣國がこれを造ったと書かれて
いますので、この二つの鐘は、千
三百年の昔、筑紫のどこかの工房
で相前後して造られたと考えられ
ています。
大みそかの夜、耳を澄ますと、
筑紫野をわたる千三百年の響きが
聞こえてきます。